

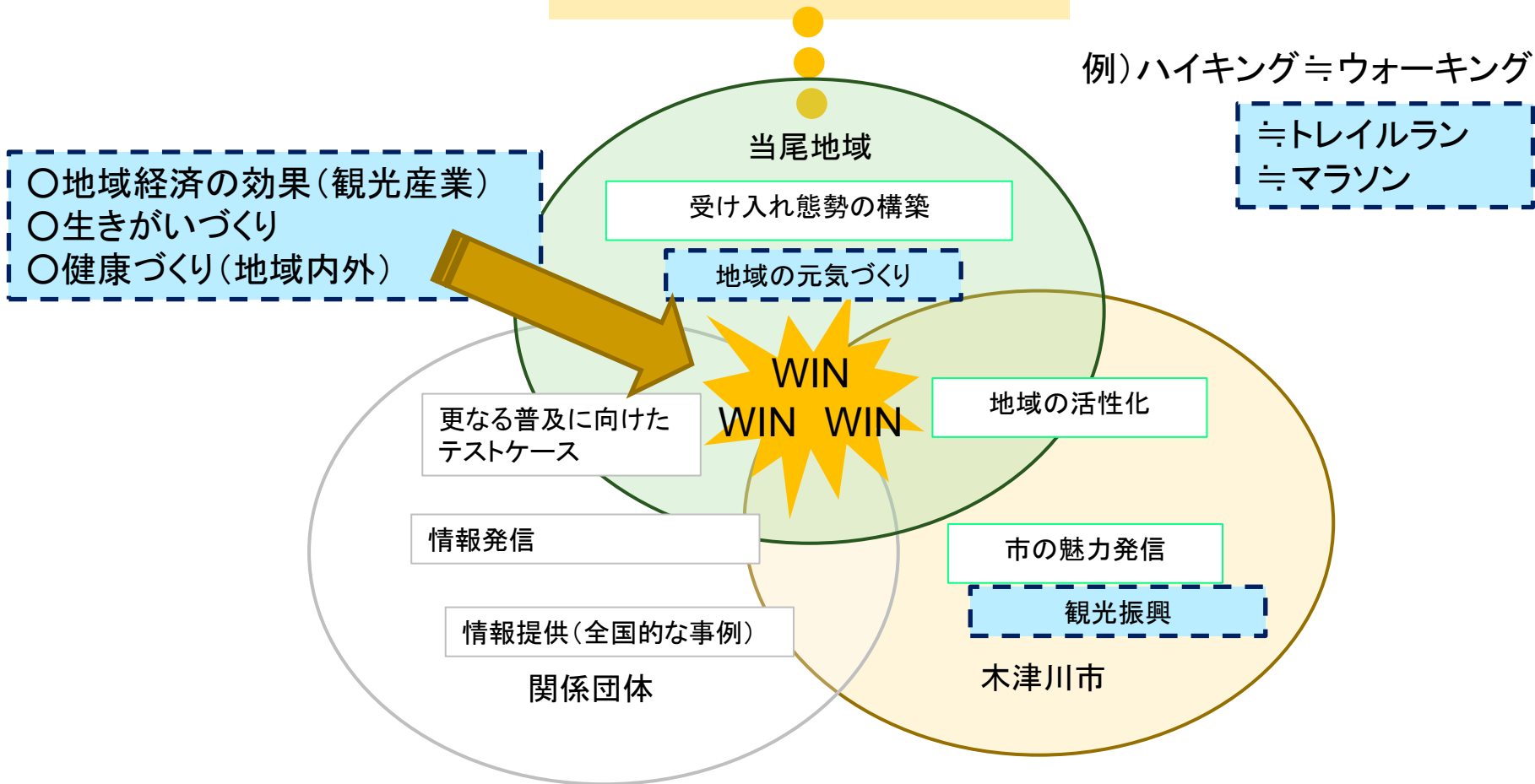
素案づくりに向けて

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会
平成27年3月17日－第4回委員会

概要（イメージ） ～第1回資料から～

協働による理想郷の実現化

当尾モデルを全国へ



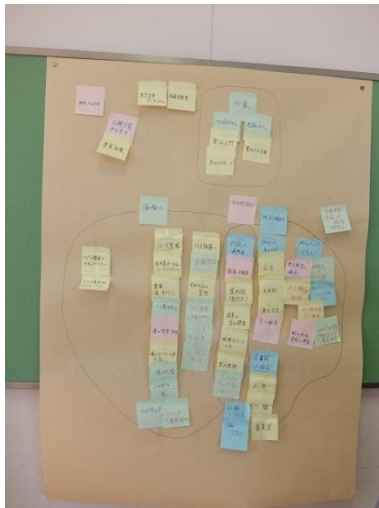
地域力活性化に向けた魅力



【A班】

●当尾の自然に注目

- 大学とはじめとする「若い世代との連携」
- 体験型の地産地消や空家利用によるコミュニティ活性化など
- ウォーキングやトレイルランニングなど、「体を動かすスポーツ」
- 被害の大きいイノシシについて、「食」の視点からの利活用



【B班】

●「道」と「地元ならではの」の2つの視点

- コース整備の邪魔な木を、ベンチやチップにして道に活かす「あるものを使う」
- イノシシを活かして名物を作り、まちおこしをといった「食」の視点
- ポイントとして「道・地元・景観」の魅力アップ

第3回委員会 ワークショップ でのキーワード

道
有害鳥獣
石仏
自然
野菜
空気
吊り店
空家
体験
田畑 等



テーマ整理

テーマ	魅力高	魅力低
道	メインハイキング道以外にも道がある	整備の手が届いていない
食	吊り店には多くの野菜や漬物などが並ぶ	名物が少ない
農	当尾ごぼうなど地元ブランドがある	高齢化・担い手不足
自然	来訪者には癒しの空間になっている	里山を失いつつある
歴史	国宝級だけでなく野仏がある	奈良・京都に比べて知名度が低い
人	ノウハウを持った人材(高齢者)が多い	次世代で担い手となる人が少ない

地域の課題

高齢化し人手が少なくなっている。
(若い世代は自分たちの生活スタイルに)

負のスパイラル

田畑を作っても有害鳥獣に荒らされ、
農業の維持が難しい
農業では生計が成り立たない

今まで通りの田畑の維持が難しい。
生活スタイルの変化により、山・竹林に
人手が入らなくなっている。

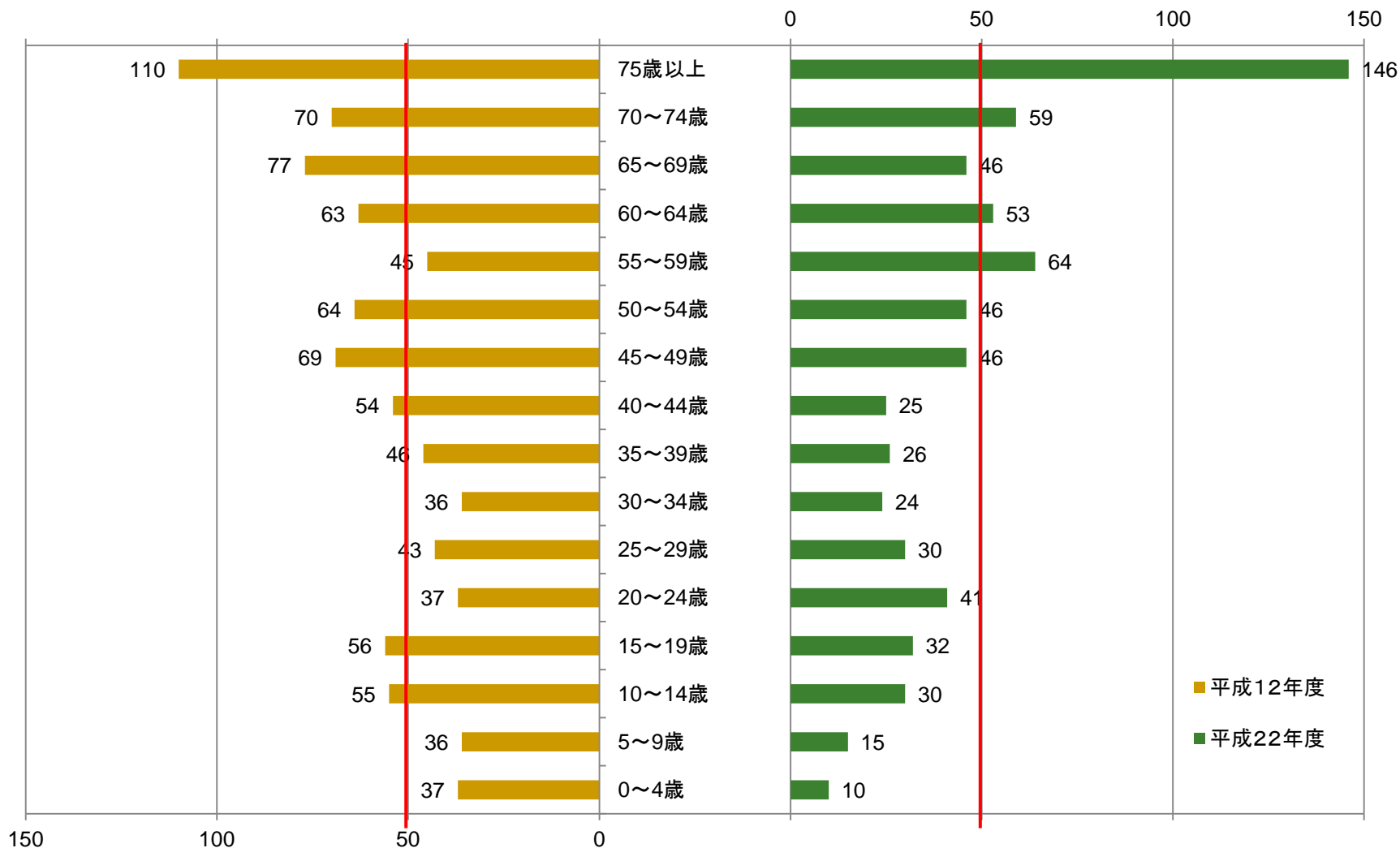
↓
荒廃の面積が増加に

有害鳥獣の数が増え、活動範囲が広
がり、山と人里の境界が無くなってき
ている。

(資料) 当尾地域人口推移

平成12年

平成22年



地域の課題解決に向けて

高齢化し人手が少なくなっている。
(若い世代は自分たちの生活スタイルに)
⇒当尾の今の環境に興味のある人はいないのか？

少しずつ…
「変化」

田畑を作っても有害鳥獣に荒らされ、
農業の維持が難しい
農業では生計が成り立たない
⇒農業の維持にはつながらなくても、農業以外で
主生計の成り立つ人が来てくれたらどうか？

今まで通りの田畑の維持が難しい。
生活スタイルの変化により、山・竹林に人手が入
らなくなっている。

↓
荒廃の面積が増加
⇒体験型・イベント型にすることで人を確保してみ
てはどうか？

有害鳥獣の数が増え、活動範囲が広がり、山と
人里の境界が無くなってきている。
⇒農業の面からは有害であるが、駆除した後に
「食」をテーマに何かできないのか？

地域の転換へ

高齢化し人手が少なくなっている。
(若い世代は自分たちの生活スタイルに)
⇒当尾の今の環境に興味のある人はいないのか？
⇒⇒新たに何か動くことで、興味のある人の対象が広がる

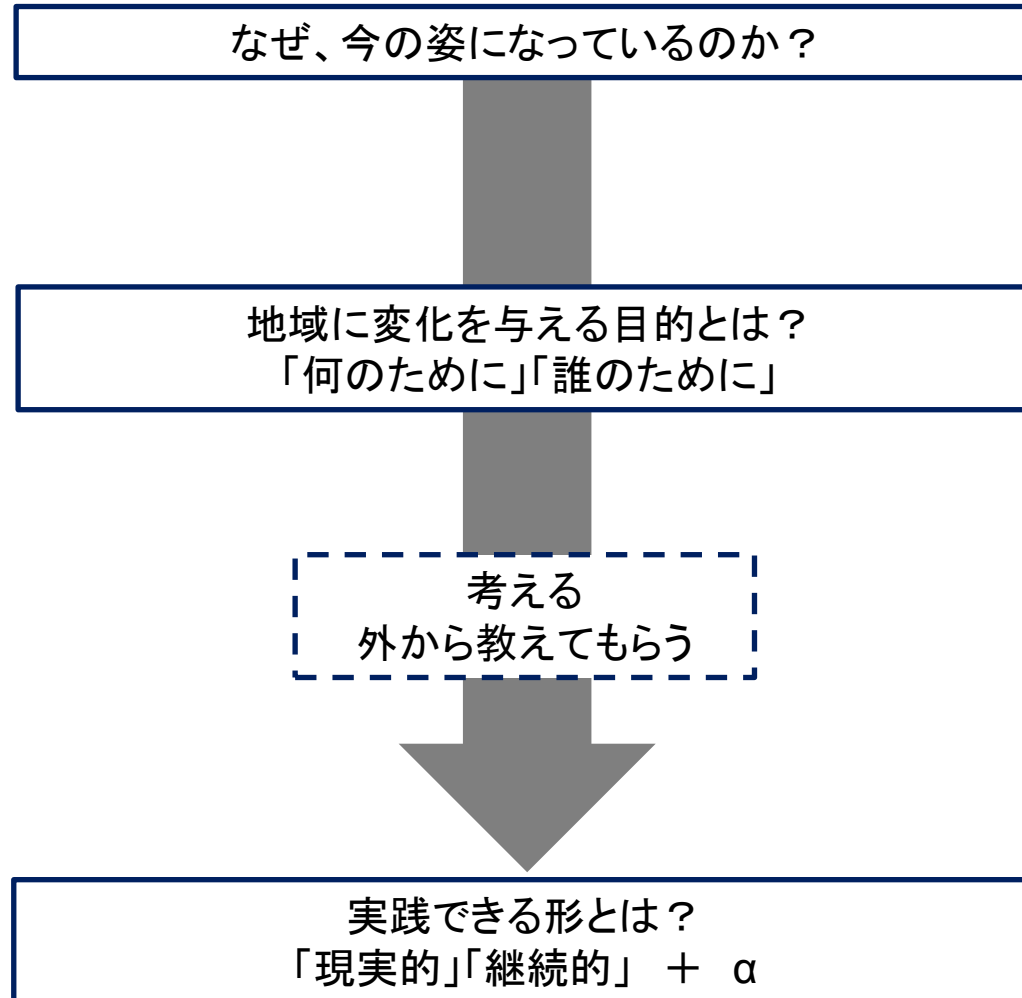
「負のスパイラル」 からの転換

田畑を作っても有害鳥獣に荒らされ、
農業の維持が難しい
農業では生計が成り立たない
⇒農業の維持にはつながらなくても、農業以外で
主生計の成り立つ人が来てくれたらどうか？
⇒⇒人が来ることで新たな交流が生まれる可能性
がある。

今まで通りの田畑の維持が難しい。
生活スタイルの変化により、山・竹林に人手が入らな
くなっている。
↓
荒廃の面積が増加に
⇒体験型・イベント型にすることで人を確保してみ
てはどうか？
⇒⇒他人の力を借りて田畑の維持に活用していく。
山の木を薪として活用する人はいないのか
↓
現状の維持につなげる

有害鳥獣の数が増え、活動範囲が広がり、山と人里の境界が無くなってきている。
⇒農業の面からは有害であるが、駆除した後に「食」をテーマに何かできないのか？
⇒⇒食の話題に活用することで、少しの利益を生む可能性がある。

これからの姿の検討



提案に向けて①

テーマ「道」～スポーツ(体を動かす＝健康づくり)～

【現状】(前回のワークショップから)

道のコンクリート率が高い トレイルランニングにとって高低差が少ない

ノルディックウォークも可能なコース 道の拡張 冬のハイキング

石仏・景観に癒される コースの草刈等の整備が必要 案内板が必要 邪魔な木の利活用

休憩ポイント・トイレが必要 案内人の活用 スマホの電波もOK(GPS機能で) 自然観察

【手を加えず現状のまま】

人が入らず道が消滅していき、人の活動面積の減少、有害鳥獣等の活動面積の拡大につながる

【地域力を高める取組案】

・道をつなげる(歩・走の環境整備) ・人の活動エリアの維持に向けた環境づくり

【地元が望む姿】

・人は来てほしいのか? ・道歩きの際の地元ルールを守ること?

【来訪者が望む姿】

どこでも安心してハイキング等ができるように

○地域経済の効果(観光産業)

○生きがいづくり

○健康づくり(地域内外)

提案に向けて②

テーマ「農・食」

【現状】

従事者(農業・吊り店)が高齢化 次の担い手が不足 有害鳥獣の被害が甚大 空家の増加

【手を加えず現状のまま】

高齢化・人口減少 放棄地の拡大
電気柵の設置などによる有害鳥獣等の活動面積の拡大抑制

【地域力を高める取組案】

農業をはじめ人手確保のための体験型環境整備(手伝ってもらったお礼は農産物「物々交換」)
田舎暮らしを求める方への田畑の貸出し・体験(農業で培ったノウハウの提供)
地域の魅力を求める方への空家の利活用、オーナー・地元の方とのマッチング
有害鳥獣も含め「食」による魅力の創造
気軽に野菜等を販売できる環境づくり
農家民宿等の新たな定住化の取り組み

【地元が望む姿】

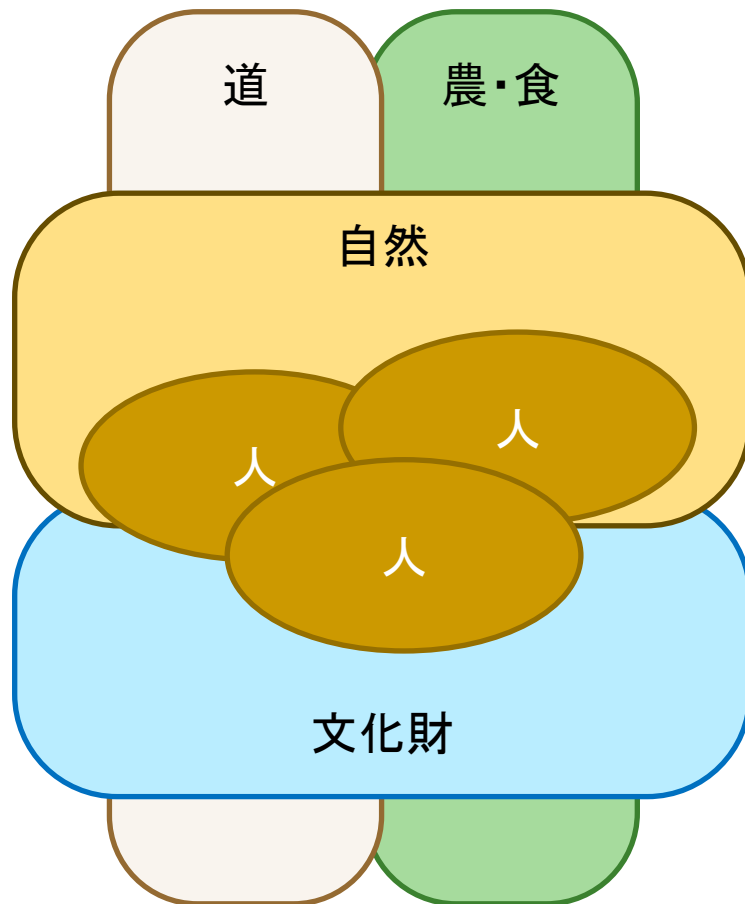
人は来てほしいのか？

【来訪者が望む姿】

受け入れが整っているのか

- 地域経済の効果(観光産業)
- 生きがいづくり
- 健康づくり(地域内外)

提案に向けて③



【目指すべきイメージ】

●地域が求める姿の把握

・地元へのPR

●人を引きつけている魅力のブラッシュアップ

・情報発信

・文化財・自然等を目当てとしたハイキングコースの発掘
およびハイキング以外での利活用

●役割分担・実施主体

・地元

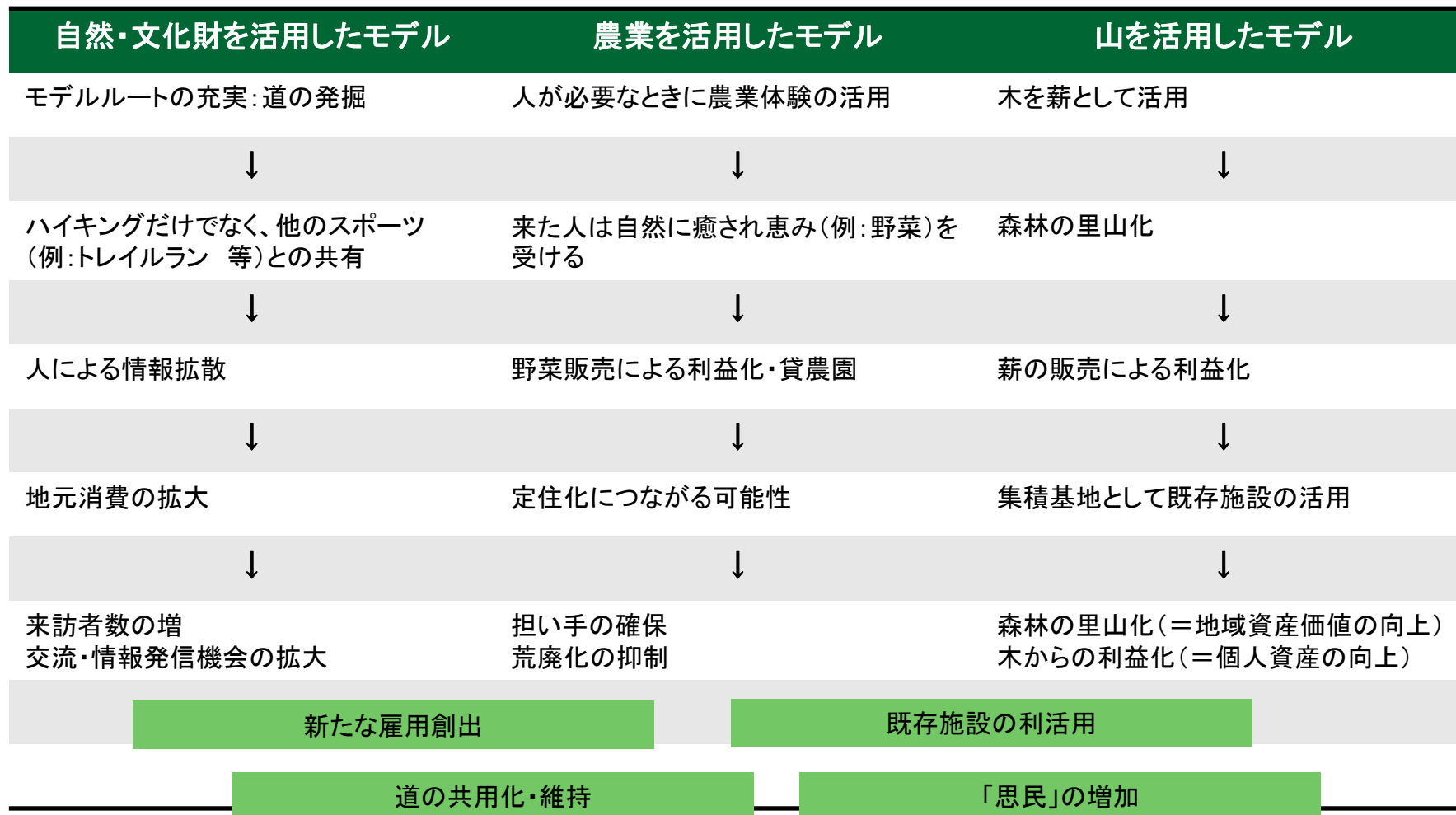
・市

・関係団体

↓ 将来において・・・

「潤い・恵み・安らぎ」をもたらすモデルの構築へ

提案に向けて④



観光資源を活用した地域力活性化 に向けたコンセプト

当尾地域力活性化プロジェクト

テーマ：魅力再発見 今ある「宝」からの創出

当尾地域には、これまでから地域により守られてきたものが多いものの、高齢化等の要因により、維持することが厳しい現状を迎えている。

しかしながら守られ・育んできた、地域の「今あるもの＝宝」に注目すれば、当尾以外の方からは、日々の暮らしで体験できない魅力を見つけることができることから、新たに何かを生み出すのではなく、今までの財産から新たな魅力を創り出すことが、地域力の活性化につながる。

また、来訪者のためだけに、何かをするのではなく、地域のために、継続して成せることが、最終的に来訪者のためにもなるシステムを創り出すことになる。

観光産業は、その域内に効果を生み出すことのできる産業であることから、地域力を高めることで、地元雇用や既存生活基盤の充実につながる可能性を含み、将来的な定住促進につながることで地域の持続性確保になる。

